

## 公益社団法人日本学生陸上競技連合 2020年度（令和2年度）事業報告

【概要】＜新型コロナウイルス感染症対策に明け暮れた1年＞

### 【公1-競技会】

2020年3月、国内、海外において新型コロナウイルス感染症が蔓延し、男女学生ハーフマラソン選手権大会、世界大学クロスカン트리選手権(モロッコ)が中止に追い込まれた。その流れは令和2年度に入るとさらに陸上競技界へ甚大な影響をもたらすことになった。東京オリンピック・パラリンピックが1年延期となった中で、本連合では、日本陸上競技連盟、地区学連、各専門委員会とも連携し、この未知のウイルスに対して、各事業や関連競技会への対策について検討を重ねたが、6月の日本学生個人選手権大会、7月の実業団・学生対抗陸上競技大会は中止を決定した。また、10月の出雲駅伝についても、出雲市と開催の可能性を探りながら検討したが中止の決断に至った。ほとんどの競技会が中止に追い込まれる中で、9月の日本インカレについては、財務面での問題はあったが無観客を決断するなど厳しい感染症対策を取り、新潟県、新潟市をはじめ多くの関係者のご理解、ご協力を得て、開催することができた。陸上競技界において、全国大会の再開を最初に実現したその意義や何より選手から感謝されたことは大きな評価に値するものであった。ロードレースシーズンの皮切りとなるはずだった出雲駅伝の中止は、地方における全国大会開催の難しさ、公道を利用する上での対策の難しさを露呈した結果となった。出雲駅伝の中止をバネに更なる感染症対策の強化をしたこと、地元関係者のご理解とご協力を得ることによって、10月25日開催の全日本大学女子駅伝、11月1日開催の全日本大学駅伝、12月30日開催の富士山女子駅伝の3つの駅伝は無事終了することができた。

2021年は、FISUワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)の開催の年である。世界的なパンデミックが続く中、選手選考など派遣の準備は粛々と進めていかなければならない状況であった。日本代表選手選考競技会の皮切りとなる3月14日開催の立川シティーハーフマラソン(男子)、続く3月21日開催の松江レディースハーフマラソン(女子)がともに中止となったため、本連合は、陸上自衛隊立川駐屯地周回コースを貸し切り、無観客で男女の日本学生ハーフマラソン選手権大会兼日本代表選手選考競技会を単独で開催した。ハーフマラソンの単独開催は初めてであったこと、新型コロナウイルス感染症の対策を十分にとることなど、経験の無い事業であったが、関東学連の運営協力のもと、無事終了することができた。

### 【公2-育成】

育成事業においても新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の中止や変更が生じた。

競技者育成事業の計画において、毎年、日本陸連を通じて招聘される台北国際陸上競技大会、香港インターシティ、長距離選手の強化事業として派遣するオランダ/ナイメーヘン15kmロードレースへの派遣は中止とした。また、審判員育成については、通常の講習会ができないことから、各地でリモートによる講習会が認められ、B級審判の養成、資格取得は実現した。しかしながら実務講習や競技会での審判経験ができていないことにより若干の課題を残した。指導者会議については、令和元年度は中止となったため、テーマであった①「第30回ユニバーシアード競技大会(2019/ナポリ)」の報告、②「2020東京五輪後の実学対抗戦のあり方を考える—検証と課題—」をそのまま本年度のテーマとして、Web会議システムにより実施した。

### 【公3-調査研究】

調査研究事業においては、年4回の陸上競技研究の発行を無事終えた。共催の陸上競技学会については、オンラインの開催となった。

### 【法人管理部門】

令和2年度の最初の理事会は5月16日、東京において開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面による会議を取りやめ、「決議の省略」の手法である書面決議とした。6月13日開催の定時社員総会は、首都圏の感染者数の推移が落ち着いたこと、役員改選の年であったので感染対策を施したうえで対面での開催とした。引き続き開催した理事会も対面での実施とし、会長以下、業務執行役員を理事の互選により選出した。9月11日～13日開催の日本インカレに付随した理事会(9/10開催)は対面で実施することができたが、以降の会議関係は、感染症第2波、第3波の影響もあり、理事会(12月5日、2021年3月6日)、各専門委員会など、ほとんどWeb会議システムによる実施となった。

日本学連の活動の中でも重要な立場にある学生役員のための第46回幹部役員研修会も残念ながらリモート開催となった。始まって以来のオンライン研修であったこと、リアルなふれあいや懇親の場が持てなかったことによる学連運営、全国大会運営への影響が心配されたが、オンラインによる新しい可能性の追求も含め、ポジティブにとらえながら研修を終えることができた。

### 【普通会员の登録数】

令和2年度、普通会员登録者数は18,226名となった。昨年の20,339名から一気に2,113名の減、率にして約1割の減少となった。新型コロナウイルス感染症は日本陸上界全体の登録数を減少させ、特に高校生は夏のインターハイが開催されなかったこともあり、3年生の登録が大きく落ち込んだと聞いている。大学における次年度以降の登録数にどのように影響があるのか心配なところもあり、新型コロナウイルスの収束に期待したいところである。

### 【令和2年度新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった事業】

#### 公1(競技会):

- ・2020日本学生個人選手権大会 6月5日(金)～7日(日) 於:平塚市
- ・秩父宮賜杯第60回実業団・学生対抗陸上競技大会 7月18日(土) 於:平塚市
- ・第32回出雲全日本大学選抜駅伝競走 10月11日(日) 於:出雲市

#### 公2(育成):

- ・2020チャイニーズ台北国際陸上競技大会派遣
- ・香港インターシティ2020
- ・Zevenheuvel en loop15km(オランダ/ナイメーヘン)
- ・西日本インカレ(共催)中止(育成補助金)
- ・競技力向上のための巡回指導
- ・学生審判員研修のための講師派遣

## 事業の詳細

### (1) 公1<競技会>

No.	競技会	期日	場所	種目数	参加校・競技者数	備考
1	天皇賜盃 第89回日本学生陸上競技対校選手権大会	2020年 9月10日(金) ～13日(日)	新潟 テニカビッガスワンスタジアム	男子22 女子22	102校…877名 89校…720名	男子優勝校：日本大学(100.5点) 女子優勝校：筑波大学(76点) U20日本新(1)、大会新(7)
2	第38回 全日本大学女子駅伝対校選手権大会	2020年 10月25日(日)	仙台市 38.0km 6区間		国内・25校 (東北選抜の編成は無し)	優勝：名城大2時間02分57秒(4年連続5回目) 2位：大東文化大 2時間05分48秒 ※優勝チーム：文部科学大臣杯を授与
3	秩父宮賜杯 第52回全日本大学駅伝対校選手権大会	2020年 11月1日(日)	名古屋市～伊勢市 106.8km 8区間		国内・25校 (東海選抜・日本学連選抜の編成は無し)	優勝：駒沢大 5時間11分08秒 (6年ぶり13回目の優勝) 2位：東海大 5時間11分31秒
4	2020全日本大学女子選抜駅伝競走	2020年 12月30日(月)	富士市・富士宮市 43.4km 7区間		国内…22チーム (全日本大学選抜・静岡県選抜の編成は無し)	優勝：名城大 2時間21分38秒 2位：大東文化大 2時間24分16秒 ※優勝チーム：文部科学大臣杯を授与
5	第24回日本学生ハーフマラソン選手権大会 第24回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会 兼 FISU World University Games (2021/成都)日本代表選手選考競技会	2021年 3月14日(日)	立川市/陸上自衛隊立川 駐屯地内周回コース	男子/226エントリー		優勝：鎌田航生(法政大) 1:03:00 2位：鈴木芽吹(駒澤大) 1:03:07 3位：島崎慎愛(國學院大) 1:03:08
6				女子/89エントリー		優勝：小林成美(名城大) 1:14:36 2位：鈴木優花(大東大) 1:14:36 3位：荒井優奈(名城大) 1:14:45
7	第15回日本学生20km競歩選手権大会 兼 FISU World University Games (2021/成都)日本代表選手選考競技会	2021年 3月21日(日)	能美市宮20kmコース	男子/64エントリー 女子/25エントリー		男子/川野将虎(東洋大) 1:21:01 女子/林 奈海(順天堂大) 1:38:32
8	2020年日本学生記録年鑑の発行	2021年 3月31日発行			1100部発行	主催競技会の記録、2020年50傑、歴代10傑他

### (2) 公2<育成>

No.	競技会等	期日	場所	備考
1	第42回北日本学生陸上競技対校選手権大会	10月17日(金)～10月 19日(日)	北上総合運動公園陸上競技場	第73回東北インカ同時開催
2	日本学連栄章贈与式/諸記録章 (日本学生新記録)		新型コロナウイルスの影響 により式典は中止	2020年 日本学生新記録章 3000mSC：三浦龍司(順天堂大) 8分19秒37 10000m競歩：池田向希(東洋大)で37分25秒90 女子棒高跳(室内)：諸田実咲(中央大) 4m30
3	第104回クロカン日本選手権(日本学連共催競技会)	2021年 2月27日(土)	福岡市/海の中道海浜公園 男子12km, 女子8km	男子最高：三浦龍司(順天堂大) 29分10秒(日本選手権1位) 女子最高：和田有菜(名城大) 26分11秒(日本選手権3位)
4	第66回指導者会議	2021年 3月6日(土)	オンラインにて実施	
5	新規B級審判員資格認定		各地オンライン講習も取り 入れながら実施	講習会は地区学連が開催
6	ドーピング・コントロール・テスト	2回	各地	検査実施大会(日本IC、杜の都駅伝)
7	知っておきたい アンチ・ドーピングの知識2020発行	2021年1月1日	日本学連ホームページに公開	日本学連医事委員会編集

### (3) 公3<調査研究>

No.	事業	期日・回数	場所	備考
1	2020年度日本陸上競技学会共催	2021年2月23日(火)	山梨学院大学	第19回大会
2	研究調査『陸上競技研究』の発行	年4回/121～124号		(ISSN 0919-9918)日本学連調査研究委員会 2020/6/30、9/30 12/31、2021/3/31発行 ※令和2年度スポーツ振興くじ助成金事業

### (4) 法人管理部門<組織力管理>

No.	事業	期間・回数等	摘要
1	理事会の開催	年5回	第43回(5月22日) 第44回(6月13日) 第45回(9月10日) 第46回(12月5日) 第47回(3月6日)
2	社員総会の開催	年1回	第12回定時社員総会(6月13日)、
3	会員の入会受付	2020年度	名誉会員 42名 正会員 135名 普通会員(学生) 18,226名 対前年△2,113名
4	公認競技会開催申請及び記録公認申請	2020年度	日本学連傘下の団体の公認競技会開催受付/日本陸連申請(競技会) 日本学連傘下の団体の記録公認受付/日本陸連申請(競技会)
5	会報の刊行	3回	各回 1,000部(名誉会員、正会員、役員、委員会委員 賛助会員 地区学連加盟校に配布)
6	ホームページの運営・公開	随時	事業計画、事業報告、計算書類等の公開、競技会等に関する情報提供、等
7	学生役員会議	2020年12月7日(土)	オンライン開催 参加対象：各地区学連幹部学生役員
8	第46回学生幹部役員研修会	2021年3月5日(金)	オンライン開催 参加対象：令和3年度各地区学連三役
9	学連情報の掲載	毎月	『月刊陸上競技』に掲載(各地区ヘッドコーチ、地区選出理事、専門委員長などが執筆)